

# 1. 評価結果概要表

平成20年 10月 11日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2094000029		
法人名	むすび会福祉 有限会社		
事業所名	グループホーム よっこらしょ!		
所在地	安曇野市豊科94-1 (電話) 0263-71-2015		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成20年10月7日	評価確定日	平成20年11月4日

【情報提供票より】(20年 9月 24日 事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 1月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤7人	非常勤3人 常勤換算6人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000円	その他の経費(月額)	18,000円(4月~10月)	
敷金	無		20,000円(11月~3月)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (200,000円)	有りの場合償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,333円	

### (4) 利用者の概要 (9月 24日 現在)

利用者人数	7名	男性	3名	女性	4名
要介護1		要介護2		1名	
要介護3	4名	要介護4		2名	
要介護5		要支援2			
年齢	平均 87.7歳	最低	81歳	最高	95歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	こうの内科医院 ・ 鶴見医院 ・ 城西病院 ・ 山本歯科医院
---------	--------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

安曇野市豊科の南部、上鳥羽地区に位置し、田畑や民家が見渡せる田園風景の中にグループホームよっこらしょはある。西には常念岳の勇姿が眺められ、ゆったりとどかな雰囲気の中、「一人ひとりの可能性」等の5つの基本理念を持って、満足感や達成感といった誇りのもてる日々が過ごせるよう支援している。ご家族等からの大きな期待と要望に応えるべく、平成19年1月に開設し、明科地区にある宅老所に続き2つ目の事業所として、地域福祉に貢献している。躰の良くできた小型犬の「ノン」を日々の生活の話題の糸口にして、重度化している利用者の思いや願いを精一杯汲み取り、その人に合わせた介護の実現に努力している。看護師を配置し、入院しても2~3か月は居室を確保しておくなど、安心して暮らしていける環境を整えている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回初めての評価である。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員会議や勉強会などで評価について理解を深めるよう話し合いをし、自己評価の結果を参考にサービスの質の改善に向けて取り組もうとしている。今回の外部評価の結果を介護のステップアップの足がかりにしようとしている姿勢が伺えた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 会議のメンバーは地区、民生委員、行政、家族等であり、意見交換は活発である。新しい事業所であるため、防災の事、地区行事への参加のことなど基本的な部分について地域からの意見が出ていて地域の期待度が伺えた。地域密着型の足がかりとなる重要な会議であるので、事業所を理解していただく努力をさらに重ねることを期待します。地区や行政の大きな協力支援を必要とするが、事業所としても地域等から頼られ、ここであってよかったと思われるような事業所になるよう、自ら積極的に働きかけるなどの一層の工夫を望みます。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 月1回利用者の様子(生活、食事、入浴等の状況)をご家族に報告しているため家族との連携は良好である。意見箱を設置してあるが特段の意見は今のところ出ていない。面会時や運営推進会議(家族は交替で出席)の折には、ご家族の思いや意見を聞くようにしている。意見が出れば、職員会議で話し合い、介護の質の向上に活かしてゆく姿勢である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所で飼っている犬の「ノン」をお供にして散歩し、「ノン」をきっかけに声を掛けたり、掛けられたりとい交流が来ている。ただし、事業所の行事などに来ていただくことや日々気軽に訪ねて来ること、保育園児等との交流といった日常的な接触が少ないので、地域にとっても大切な事業所となり、災害時等の協力を当たり前で得ることができる関係となれるよう、これからの積極的な努力を期待します。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	5つの地域密着型に適合した基本理念を掲げ、その理念を利用者のサービスに活かしながら、地域と共に利用者の暮らしを支えていくことを目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議等により、全職員の理念の共有化を図り、現場の介護の実践の中で活かし、運営推進会議でもこの理念を地域の人たちに理解していただき、地域との関わりを深めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣への散歩の折には声を掛けたり、掛けられたり、時には野菜のおすそ分けを頂くなど近所とは顔見知りになっている。20年からは下水道の話し合いや、新年会に出席している。		地域密着型の主旨に沿って、地域の一員として理解され、地域にとっても大切な事業所として認められるためにも、散歩の頻度を多くしたり、地域の各種行事に参加し、少し遠いが保育園児、小、中学生との交流、事業所行事への招待などを積極的に推し進めることを期待する。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議や勉強会等で評価の意義(評価すること、評価されること、単に批判だけに終始しないこと)についての理解を深めている。今回は初めての外部評価になるので、この結果を職員の中で充分に話し合っ、今後活かしていく旨を伺った。		

グループホームよっころしょ！

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>年2回と開催数は少なかったが、構成メンバーは基準に沿っており、防災や行事のことなど、地域からの活発な意見が出ていて、地域からの暖かいまなざしが感じられた。今後は認知症理解の機会を持ちたい旨を伺った。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>行政とは良好な関係を保っている。又各種の制度的な面での指導を頂いている。今後は、たよりや各種の行事案内を配布することも検討している。</p>		<p>市は市民福祉を推進する地方自治の最前線の立場として重要な存在であり、事業所の考え方や実態を共有して、後押しをしてゆくことが大切である。地域とのつながり、ショート等の今後の事業展開、行政職員の認知症理解等課題は多くあるので、さらに密なる接触を期待します。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回事業所での個別の利用者の暮らしぶりを報告している。さらに「ノンちゃん通信」で事業所全体の様子や行事、新職員のことなどを伝えている。又、利用料の支払や面会時を活用し、緊急時には電話で、報告がなされている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時等を活用して意見等を聞く機会にしている。意見箱も設置してあるが、特段の意見がない現状である。意見等があれば職員会議等で話し合っ、介護の質の向上に活かしたい旨を伺った。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>同経営の宅老所との異動はあるが、職員会議は合同、行事にも参加するなど、職員間の交流はできている。異動があれば、利用者に充分説明すると共にたよりにも掲載する。離職を減らすために職員の日頃の不満や悩みの解消に努めていきたい旨を伺った。</p>		

グループホームよっころしょ！

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の申し込み用紙を回覧して、職員自身から研修希望を出している。研修に行った時は全体会議で研修内容の共有化のため報告会を行っている。外部から講師を招いて、職員全員で学べる事業所内研修会を検討中であることを伺った。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームのネットワーク作りはできていないため、同業者と交流する機会を持っていない。ただ、管理者は個人的に県のグループホーム会に所属している。		単独の事業所のままだと孤立化や独善に陥りやすい。同業者と交流することは、自らの事業所の現状を振り返り、諸々の問題点に気付き、それらをバネにしてサービスを向上させる良い機会となる。他の事業所に期待するより、自ら立ち上がって他の事業所に働きかけてネットワーク作りをすることを望みます。
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にはゆっくり話を聞き、不安を解消して信頼関係作りをし、利用者、ご家族と一緒に事業所に来ていただき、雰囲気を見、感じてもらい馴染みながら入居いただけるよう努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	話のできる利用者が一人という重度化の中で、昔の話や農家の人には田畑の話など馴染みの話題を手がかりに会話を膨らませている。常に介護する、されるという関係にならないよう職員の意識を高め、共に過ごし支えあう関係作りに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>言葉や表情、日々の関わりの中から一人ひとりの思いや希望を把握している。ご家族や関係者から、これまでの暮らしぶりなどを聞いて、今出来ることを伸ばしてゆくよう支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>課題把握にはセンター方式を取り入れ、最初の介護計画はケアマネージャーが中心となって、担当者会議で話し合いながら作成している。面会時にご家族に説明しサインも頂いている。課題把握から介護計画立案までの流れはとてもよく出来上がっていると感じた。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しは居室担当者がこれまでの生活記録、利用者、ご家族の要望等を聞きながら計画の原案を作成し、全体会議で話し合いをして、ケアマネージャーがまとめ、見直しの計画を作成している。状況が変化した場合は、その都度見直しを行っている。月1回全体会議を持ち、一人ひとりの問題点を話し合っ、細かく計画を見直している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>看護師の配置により医療連携体制は整っており、通院の支援、退院後の生活支援の準備、さらに将来に向かってショート等を検討中であり、多機能性を理解すると共にその支援が出来上がっている。</p>		

グループホームよっころしょ！

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者やご家族が希望するかかりつけ医となり、通院や受診はご家族の協力も頂いている。一般状況に合わせて、ご家族の許可を得ながら、事業所の協力医の受診も行っている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>これまでに終末期のケアは行っていないが、終末期対応のマニュアルはできている。契約時に看取りについての説明をしてご家族等の理解を得ている。できるだけ無理な延命治療は行わない方針であるが、何が利用者にとって一番よい形で終末期を迎えられるかを関係者全員で共有化できるように話し合う体制が出来上がっている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>勉強会やミーティングの折に職員の意識向上を図り、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応をしないよう徹底している。ただ、日々の介護の中で気付かずに言ったり行ってしまうこともあるのでリーダーが中心となり点検を行っている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが、過ごす時間の中で希望や関心事等を見つけて、利用者自身が決める場面作りをしている。又、発声や手指体操、合唱など利用者が喜んでもらえることを提案したりして、利用者が一日ゆったりと楽しく暮らしてゆけるよう支援している。</p>		

グループホームよっころしょ！

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度者が多いので料理作りなどはできないが、旬の物や新鮮な材料を使って調理員が利用者のこれまでの食生活に合った家庭料理を心を込めて作っている。行事に合わせてのオードブルや外食、パイ作りなど昨今の料理も楽しんでいる。食堂では誤嚥の心配があるので会話よりBGMやアロマセラピーを中心にゆったり楽しく食事ができるようにしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回、午前中に入浴しているが、今のところ、それ以外の希望が出ていない。浴室も広く、入浴用の介護用品もあり、快適に入浴を楽しんでいることが伺えた。重度者には二人対応がなされ、利用者は安心して入浴ができ、職員は健康状態や事故防止に注意しながら見守りを大切にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農業経験者が居るので、ささやかな菜園への指導を仰いでいるが、全体的に重度者が多いので、何かをやりだして役割や楽しみごとを支援することより、散歩や外食会などによる気晴らしの支援が多くなっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	田圃道の散歩や四季折々には遠出をし、散歩コースにある花見を楽しんだりして、四季を肌で感じるなど気分転換やストレス発散、五感刺激の機会を多く作っている。声を掛けたり、声を掛けてもらったりと散歩しながら近隣とのつながりも大切にしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないことについては全職員で共有化ができている。夜は1時間ごとに利用者の様子を見るなどの配慮をし、職員会議では一人ひとりの予測される危険な行動を検討している。安全面に充分気をつけて自由な暮らしを支えるようにしている。		

グループホームよっころしょ！

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>事業所内の防災訓練は行われていないが年1回の応急手当の勉強会は実施している。緊急対応マニュアル、連絡先、連絡手順が見やすく掲示されており緊急時には安心して対応できることが伺えた。</p>		<p>単独事業所であり、特に夜間は一人の職員となり災害時の対応は困難が多い。利用者や職員が共に安心して暮らしてゆけるよう、地域の人、行政、消防団等の協力体制を作り年1回は地域との合同防災訓練を実施することを望みます。さらに事業所単独の防災訓練(避難、消火)も年1回は実施することを期待します。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量や水分量はチェック表により記録、確認が充分できている。調理員による利用者の嗜好に合った家庭料理が中心であり、調査日も昼食を頂いたが懐かしさもありがたかった。ただ、年数回、栄養士の献立指導を受けることを希望します。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間、食堂、台所とつながっており、調理風景が見えたり、調理の音や匂いを感じたりと生活感が得られるようになっている。居間兼食堂の壁には行事の写真や案内、飾り物があり、中央には昔懐かしいケヤキの大黒柱が鎮座して採光もよく、広々とゆったりした空間になっている。冬季は床暖、畳コーナーにはコタツと安全快適と懐かしさが同居して、居心地よく過ごせるよう工夫されている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>布団、タンス、棚、神棚、手紙、写真、飾り物など利用者の馴染みの物が置かれ、窓からは北アルプスや田園風景が眺められ、今まで住んでいた懐かしい風景が目前に広がっており、居心地よく過ごせる居室になっていた。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。